

第61期特別体育課程入校式



第61期特別体育課程（冬季特別体育教育室）

入校式

冬季自衛官アスリート 新規採用2名を迎え15名

4年後のイタリア五輪へ向け

始動

自衛隊体育学校は令和4年5月10日、真駒内駐屯地において第61期特別体育課程（冬季特別体育教育室）の入校式を挙行了た。

式は、バイアスロン連盟 出口弘之会長、真駒内駐屯地司令 五十嵐淳 1等陸佐をはじめ部内外の来賓を迎え、学生家族等が見守る中、新型コロナウイルス感染拡大防止処置をとり厳粛に執り行われた。

今期の入校学生は、第60期から引き続き入校する学生が13名、新規採用の体育特殊技能者が2名の15名となる。

入校学生は一人ひとり紹介された後、学生代表のバイアスロン班 立崎幹人 2等陸尉の号令で力強く申告した。

豊田真学校長は学生らに対し「アスリートとして成功するかどうかということが人生の充実に直結する。つまり、アスリートとしての実績を残せば残す程、人生の輝きが強くなるということである。このことを強く意識し各々の競技力向上に全力を尽くし、アスリートとしての成功に向け邁進して貰いたい。アスリートでいられる時間は短く、限られている。限られた時間を大切に、強い自覚と真摯な鍛錬の積み重ねにより、初志を貫徹しそれぞれの夢を実現して貰いたい。」と要望し、「選手を強くできないのは指導者の責任であることを、指導者は深刻に受けとめなければならない。現在の厳しい状況からは、一朝一夕に成果を出すことは困難であるが、4年後のイタリア、8年後の札幌に向け、長期的視点、視野に立って着実に結果を出していくよう今年度が本格的強化の元年であるとの認識で取り組んで貰いたい。」と式辞を述べた。

来賓を代表してバイアスロン連盟 出口弘之会長からは、「昨シーズンは、長期の海外派遣に体育学校長以下職員の皆さまのご理解・ご支援ありがとうございました。また、5ヶ月間戦い抜いた選手・スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。今回の北京五輪の反響は大きく、国内だけではなく世界にバイアスロンと言う素晴らしい競技を知ってもらえることができ、お礼を申し上げます。2026年ミラノ・コルティナダンペッツォ五輪、2030年招致札幌五輪でメダル獲得に向け頑張ってください。」と激励した。

冬季特別体育教育室は、11月から始まる2023シーズン活躍に向け決意を新たにした。



立崎2尉の号令で申告をする学生



式辞を述べる豊田学校長

新規入校者紹介



バイアスロン

ごう しょういちろう
郷 翔一郎

2等陸曹

出身 新潟県小千谷市
出身校 東洋大学



バイアスロン

たけうち みこと
竹内 美琴

2等陸士

出身 長野県木島平村
出身校 飯山高校

